

官邸メール署名に向けて

ここからは署名に向けて韓国及び日本への理解を深めてもらう為の内容となっております。

知らない人には寝耳に水の内容かと思われれます。

不穏な内容も多いので、何か宗教的な何かと疑う気持ちになるかもしれません。

啓蒙という意味合いで載せていますので、**全てを信じる必要はありません。**ただし、**リスク管理として“こういう事が発信されている事実があるんだ。”**という事を知ってもらえれば幸いです。

内容が長いので、表題やマーカーをしている所だけを斜め読みでも問題ありません。頭の片隅において頂けたらとお願い申し上げます。

宜しくお願い致します。

目次

- ①アメリカ食品医薬品局での韓国産貝類輸入規制
- ②李承晩（りしょうばん）ライン
- ③韓国人考察
- ④WGIP
- ⑤関東大震災発生時の朝鮮人
- ⑥都知事と韓国
- ⑦安倍総理と外交
- ⑧日中戦争、日韓（朝）戦争と安倍イズム ①序章

余命署名への補助知識①

アメリカ食品医薬品局

(Food and Drug Administration; FDA)

※機械翻訳により文章が雑な部分あり

食品医薬品局：カキ、ハマグリ、ムール貝、大便の浪費またはノロウイルスによる韓国除去からの&ホタテガイ 2012年6月15日



食品医薬品局は、米国に輸入された韓国食品から全ての生鮮食品、冷凍食品、缶詰めに処理されたカキ、ハマグリ、ムール貝、魚の卵オンホタテガイ（軟体動物の貝）を、小売店、および食物サービスオペレータから取り除く事を勧めています。これは、2012年5月1日に先がけて米国に輸入された韓国食品から軟体動物の貝も含まれます。この日付の後にも不注意で国に輸入されているかもしれません。それらによって作られたこれらの製品およびどのような製品でも人糞にさらされるかもしれず、ノロウイルスにより感染します。

先月初期の通知書に続き、多くの食品会社はこれらの製品をこれらの配布チェーンから取り除きはじめました。しかし、多くの企業はまだ行動をする必要があります。

食品医薬品局評価により、重要な不足のため、もう、韓国貝衛生プログラム（KSSP）が、不十分な衛生コントロール、ノロウイルスの土地利用型の汚染源と検出の無効の管理を、エリアを育てている貝に含めている KSSP によって、米国の全国貝衛生プログラムの下で指定された衛生コントロールに触れないことが決められた。

これらの不足は、2012年5月1日に、軟体動物の貝のすべての韓国の保証された荷送人を ICSSL から追放するために、食品医薬品局を促した。韓国軟体動物貝は、米国で売られたカキ、ハマグリ、ムール貝、およびホタテガイの小さい少数部だけを表している。

最近軟体動物の貝を買い、心配した消費者 それは韓国から来るかもしれず、それが購入された店に連絡するべきで、その起源について尋ねる。消費者は、それが韓国からであるかどうかをわかるために、パッケージされたシーフードのラベルをチェックできる。もし製品がどこからであるかがクリアではないならば、消費者は、見つけ出すために、メーカーを呼ぶことができるであろう。消費者は、軟体動物の貝によって韓国から作られた韓国およびどのような製品からでも軟体動物の貝を処理するべきである。

製品を缶詰めにした熱処理は受けて、ノロウイルスのリスクを取り除くべきで、韓国からの軟体動物の貝の缶の内容は、まだ人の食物に適当ではないと考えられている。なぜなら、製品は人大便汚染が必要な水域から収穫されたからである。増水、ぞっとしていること、または缶詰めを除いた方法により処理された製品のために、製品はまた、人の消費のために、not の食物と考えられるべきで、ノロウイルスのリスクも伴うかもしれない。

<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm308353.htm>

◆ 李承晩（りしょうばん）ライン◆

原点は「李承晩ライン」いわゆる強盗ラインだ。

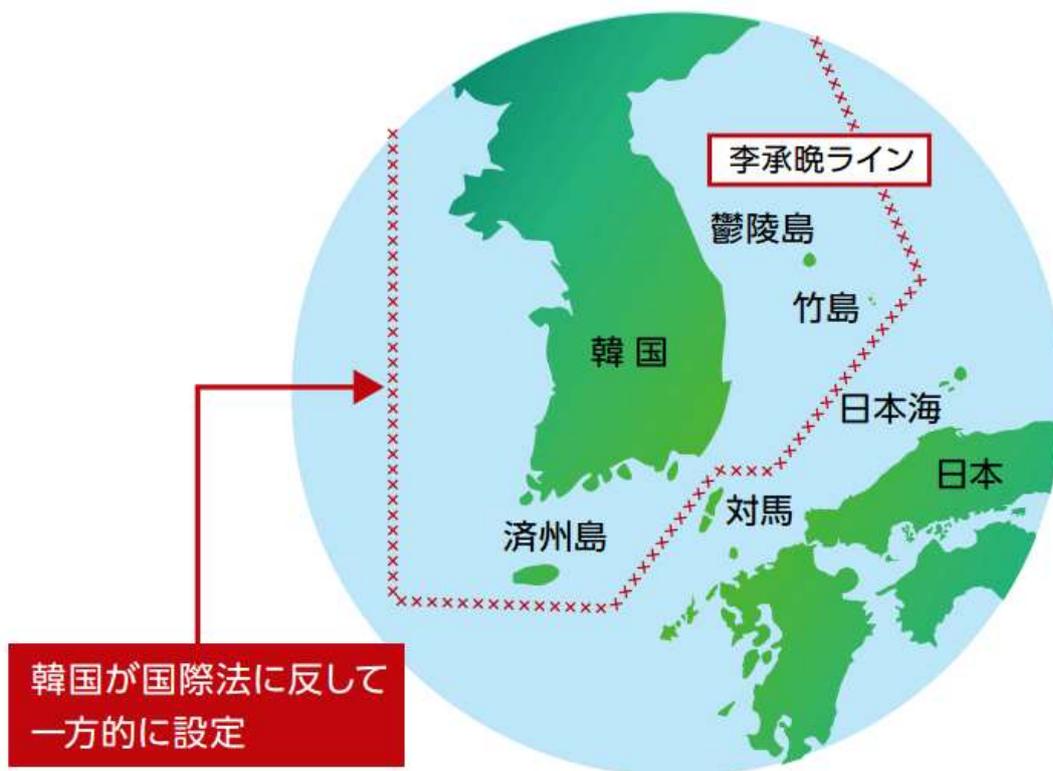
1952年1月18日、朝鮮戦争下の韓国政府は、サンフランシスコ平和条約の発効3ヶ月前に、突如として マッカーサー・ラインに代わる李承晩ラインの宣言を行った。

竹島問題の原点である。これに対し日米両政府は非難の声を挙げたがその解決には長い道のりを要することとなった。13年間に、韓国による日本人抑留者は3929人、拿捕された船舶数は328隻、死傷者は44人を数えた。

李承晩ラインの問題を解決するにあたり、日本政府は韓国政府の要求に応じて、日本人抑留者の返還と引き換えに、常習的犯罪者あるいは重大犯罪者として収監されていた在日韓国・朝鮮人472人を放免し、在留特別許可を与えたのである。これが在留特別許可の原点。

一方、韓国政府は日本人抑留者の返還には同意したが、日本政府が摘発した韓国人密入国者、重大犯罪者、政治犯等の強制送還は拒絶し、日本国内に自由に解放するよう要求した。この日本国内に自由解放された密入国者、重大犯罪者、これがヤクザの原点である。

また人質を盾に日韓条約を韓国に圧倒的有利な内容で締結させた行為。これらの事実がオープンになり、日本国民すべてが知ることとなれば、確かに無事では済まないでしょう。韓国人が恐怖心を持つわけだ。（余命三年時事日記より引用）



画像・外務省『「李承晩ライン」の設定と韓国による竹島の不法占拠』より引用
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/takeshima/g_senkyo.html

◆ 韓国人考察 ◆

韓国人の世界 <http://www37.tok2.com/home/koreanworld/> より引用

1-1. 自他の境界が消失した民族

文明の誕生以来、朝鮮半島は外民族の侵入と支配を繰り返し受けてきました。そのため、朝鮮社会は常に非常に強い社会不安に晒されてきたようです。このような強い外的なストレスから、朝鮮人は外民族に対して非常に疑い深く被害者意識が非常に強い民族になりました。また、このような社会不安から自分の感情を爆発させて不安を紛らわせたり、現実についてあまり深く考えない民族性をも獲得したようです。

彼らは外圧に対抗すべく、民族間での情緒的な繋がりを非常に強く求めて来ましたが、その結果自民族全体の心情や主観、そして思考が時空を超えて同一だと考えるようになりました。つまり朝鮮民族間では自分と他人は区別できないものであり、また昔の先人と現在の自分も区別しがたいものなのです。

このように、朝鮮では自分と他者との区別が消失しましたが、それによって登場したのが朝鮮民族全体の総体としての主観である「入場」、および朝鮮民族全体の総体としての判断基準となるスーパーデータベース「(普遍的) 真実」です。また、朝鮮人は相手から自分を区別されそうになると、自分の普段の行動は全く顧みずに必死になって「差別」だと訴え始めますが、これは彼らが自他の区別に非常に強い分離不安を覚えるためでしょう。朝鮮では自他の同化こそが信頼の証であり、自分と相手の間に境界が存在する事は決して望ましくないのです。

6-1. 日本人と韓国人は異民族

韓国人はあらゆる自己中心的な行動をして悪びれず、また他人の立場を顧みる事ができません。そして自分の主観をひたすら相手に押しつけ、何か問題が発生すれば必ず被害者面をします。このような厄介な隣人に対して、日本人はどう対処していけば良いのでしょうか？韓国人の最大の問題点は、自他の思考の区別ができない事です。ですから韓国人と接する際には、初めにまず日本人と朝鮮人の同一性を積極的に、そして明確に否定し、韓国の「真実」や「入場」などは日本では全く価値がない事を伝え、韓国側の甘えの意識を完全に拒絶するのが望ましいでしょう。

韓国人は相手との同化にこそ価値を見出すので、このような対応をすれば韓国側から「冷たい」という反応が返ってくる事が予想できます。しかし、後々の無用なトラブルを防ぐためにも、それが文化の違いであることを確実に理解してもらいましょう。必要ならば、後で距離を詰めれば良いだけです。

・韓国の身内主義・身内びいきの理由 <http://nihonsinwa.com/page/904.html> より抜粋

孔子の論語に見る「徳治主義」孔子の論語にはこのようなエピソードがあります。

葉という国の王様が孔子に言いました。

「わたしの国には正直な若者が居る。 父親が羊を盗んだことを、役所に申し出た。 どうだ凄いだろう？」

すると孔子は言いました。

「それは正直とは言いません。 親の罪を隠すのが子です。

それが正直で立派な人間というものです」

つまり孔子は、

法よりも、社会ルールよりも、「親を助ける」「親を敬う」ことが

「孝」であり、素晴らしい人間の「倫理」だと言っているわけです。

孔子は嘘を付くことが正しいと言っているのではなく、法よりも、社会ルールよりも、親を思う気持ち、その優しさが社会にあれば、きつとうまく行くよ！

と言っているのです………が、まあ、嘘や不正を肯定していると言われても仕方ないでしょう。

参考：法治と徳治

・法律より「徳」の徳治主義

これが現在の中国や韓国の政治倫理として機能しています。

たとえば、韓国の大統領が身内に利益供与をして捕まるのは、こういった倫理が韓国にあるからです。新聞やマスコミは大統領の利益供与を責めますが、一向に収まりません。それは新聞やマスコミが批判しているのは「法」と「社会倫理」の観点からであって、儒教の倫理では「身内に利益供与」する方がずっと「徳のある行為」だからです。

法よりも社会倫理よりも「身内」。悪いことだとは誰もが知っていますが、法を犯してでも「身内」に利益供与をします。

それが正しいからです。

決して韓国の大統領にモラルが無いから身内に利益供与をするわけではありません。むしろ韓国のモラルでは利益供与は当然の行為です。

アジアの森 <http://sora1975.blog88.fc2.com/>

外国人が見た百年前の韓国人 & 韓国の駅に掲示された中学生の反日ポスター
<http://sora1975.blog88.fc2.com/blog-entry-50.html> より転載

※全て約 100 年前の証言です

(1) 感情的

■フランス人宣教師シャルル・ダレ「朝鮮事情」より抜粋

朝鮮事情 (東洋文庫) http://books.rakuten.co.jp/rb/60649/?scid=af_pc_etc&sc2id=47903857

韓国人は怯えながら生きる生活が続いていたので、感情の安定を失った民族になった。

おそらく韓国人は世界一怒る事を好む民族だろう。怒る事が不安や焦燥感を解決するのだ。

代償行為になるし、自尊心を守る手段にもなる。その自尊心も、虚飾によって作られた自尊心である。だから、ちょっと触れただけで傷つき、怒りの感情が爆発する。

(2) 精神異常

■1886～91年に朝鮮で布教したアメリカ人宣教師ホーマー・ハルバート「朝鮮亡滅」より抜粋

韓国人は本当に怒ると、正気を失う。自分の生命すら見えないような状態になり、牙のある動物になってしまう。口の周りに泡が溜まり、更に動物のような表情になる。

悲しい事だが、この怒りの衝動で理性を忘れる悪弊は、男だけではない。

女は立ち上がって酷い大声で喚くので、最後には喉から声が出なくなり、次には強烈に嘔吐する。精神錯乱になった女を見る度に私は思う。

「どうして脳卒中で倒れなかったのか？」と。

韓国人は子供の時から、自分の気持ちを制御する術を学ぶ事がないらしい。

子供も親を見習って、自分の気に入らない事があると、狂人のように大暴れする。

結局、欲望を達成するか、あるいは長時間の後、鎮静に戻るか、そのどちらかに落ち着く。

(3) 依存心

■スウェーデン人の記者アーソン・グレブスト「悲劇の朝鮮」より抜粋

悲劇の朝鮮 (白帝社) http://books.rakuten.co.jp/rb/372082/?scid=af_pc_etc&sc2id=47903857

将来性がなく、中国人以上に酷い民族である。1000年前に眠った場所に留まり続けている。

更に良くないのは、その眠りから覚めようとしめない事だ。韓国人は独立が嫌なのだ。できれば他者に依存して責任回避をしたいのだ。

彼らの望むことは、何の心配もなく平和に暮らす事だけだ。「独立」と言う言葉は、彼らにとって恐怖を意味し、不信や無法と同じである。



(4) 不潔

■イギリス人女性イザベラ・バード「朝鮮紀行」より抜粋

ソウルを描写するのは非常に憂鬱だ。

北京を見るまで私はソウルこそ、この世で一番不潔な町と思っていたし、shoukou へ行くまではソウルの悪臭こそ、この世で一番酷い匂いだと考えていた。都会であり首都であるが、その粗末な様子は表現が難しい。

礼節から二階建ての家は建てられず、したがって推定二十五万人の住民は迷路のような細い道の「地面」で暮らしている。道の多くは荷物を積んだ、牛が通りにくい程の狭い道で、家々から出た小便と大便を受ける穴か溝で更に狭くなる。悪臭が酷い。

その穴や溝の横に好んで集まるのが、土の埃で汚れた半裸の子供たち、皮膚病と眼病を患った大きな犬で、犬は汚物の中で転げまわり、日光の中で瞬きしている。

■百年前の朝鮮

ソウル名物は水路である。

蓋の無い広い水路を黒く汚れた水が、川の底に堆積した排泄物やゴミの間を悪臭を漂わせながら、ゆっくりと流れていく。

もはや水とは呼べない混合物を桶に汲んだり、小川とは呼べない水溜りで洗濯している女達の姿・・・

(5) 文化が無い

■イギリス人女性イザベラ・バード「朝鮮紀行」より抜粋

ソウルには芸術品は全く無い。公園も無い。

見るべき催し物（イベント）も無い。劇場も無い。

他の都会にある魅力がソウルには全て無い。

古い都ではある。しかし、旧跡も無い。

文献も無い。宗教に無関心だった為、寺院も無い。

(6) 怠惰

■アメリカ人のジャーナリストのジョージ・ケナンの報告より抜粋

日本から朝鮮に行った旅人がまず驚くことは、日本の清潔、秩序、勤勉、繁栄に対して、朝鮮の不潔、混乱、怠惰、荒廃との間の著しい差異である。

(7) 嘘つき

■アメリカ人のジャーナリストのジョージ・ケナンの報告より抜粋

韓国人の大部分は2つに分類される。

大袈裟な事を言う人間。恥を知らずに、平気で嘘を言う人間。

この2つである。これは遺伝と教育が原因だ。

だから韓国人が話す「日本人の悪行」を信じるな。



(8) 残酷

■1886～91年に朝鮮で布教したアメリカ人宣教師ホーマー・ハルバート「朝鮮亡滅」より抜粋

動物がとても苦しがついていても、一般の韓国人は完全に無関心である。

道路に病気になった猫や犬、怪我をした鳥などがいると、子供も大人も老人も石や棒で、この哀れな動物をいじめ殺してしまう。路上で不運な犬が首に縄をつけられ、犬肉店に牽引されていく時、子供の群れが騒ぎながら、追跡する。子供達は可哀相な犬が首を絞められ、最後の抵抗をするのが見たいと期待している。そして興奮している。



■「強制連行された」と嘘をついた吉田清治。在日朝鮮人。→

子供の時から徹底的に反日洗脳されるカルト民族

■韓国の駅に堂々と掲示された中学生の反日ポスター

反日ポスター（数百枚）（在韓カナダ人が撮影）



転載ここまで

駐韓日本大使館前で行われる反日デモ



余命署名への補助知識④

◆ WGIP (ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム) ◆

概要：GHQによる戦争についての罪悪感を日本人の心に植え付けるための宣伝計画（自虐史観洗脳）

以下、wikiより転載

「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム」の冒頭には、「CIS 局長と、CI&E 局長、およびその代理者間の最近の会談にもとづき、民間情報教育局は、ここに同局が、日本人の心に国家の罪とその淵源に関する自覚を植えつける目的で、開始しかつこれまでに影響を及ぼして来た民間情報活動の概要を提出するものである。」とある[26]。

ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラムについて江藤は、その嚆矢である太平洋戦争史という宣伝文書を「日本の「軍国主義者」と「国民」とを対立させようという意図が潜められ、この対立を仮構することによって、実際には日本と連合国、特に日本と米国とのあいだの戦いであった大戦を、現実には存在しなかった「軍国主義者」と「国民」とのあいだの戦いにすり替えようとする底意が秘められている」と分析[26]。また、「もしこの架空の対立の図式を、現実と錯覚し、あるいは何らかの理由で錯覚したふりをする日本人が出現すれば、CI&Eの「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム」は、一応所期の目的を達成したといつてよい。つまり、そのとき、日本における伝統的秩序破壊のための、永久革命の図式が成立する。以後日本人が大戦のために傾注した夥しいエネルギーは、二度と再び米国に向けられることなく、もっぱら「軍国主義者」と旧秩序の破壊に向けられるにちがいない」とも指摘している[26]。

また、「軍国主義者」と「国民」の対立という架空の図式を導入することによって、「国民」に対する「罪」を犯したのも、「現在および将来の日本の苦難と窮乏」も、すべて「軍国主義者」の責任であって、米国には何らの責任もないという論理が成立可能になる。大都市の無差別爆撃も、広島・長崎への原爆投下も、「軍国主義者」が悪かったから起った災厄であって、実際に爆弾を落した米国人には少しも悪いところはない、ということになるのである」としている[26]。（※編集注：軍に所属していない民間人への攻撃は戦争における国際法上、犯罪に当たる。米国の犯罪隠蔽も含めて日本に責任転嫁をしている。）

“WGIP”を主に担当したのはGHQの民間情報教育局（CIE）で、“WGIP”の内容はすべてCIEの機能に含まれている[27][28]。当初はCIEに“War Guilt & Anti-Militarist”（これまで「戦犯・反軍国主義」と訳されてきた）[29][30]、あるいは“War Guilt & Criminal” [31]という名称の下部組織（後に「課」）が置かれていた（1945年11月の組織改編で消滅）。

“WGIP”は「何を伝えさせるか」という積極的な政策であり、検閲などのような「何を伝えさせないか」という消極的な政策と表裏一体の関係であり、後者の例としてプレスコードが代表的である。1946年（昭和21年）11月末にすでに「削除または掲載発行禁止の対象となるもの」として「SCAP-連合国最高司令官（司令部）に対する批判」など30項目に及ぶ検閲指針がまとめられていたことが、米国立公文書館分室所在の資料によって明らかである[32]。プランゲ文庫保存のタイプコピーには、多少の違いがあるが同様の検閲指針として具体的内容が挙げられている。

[26] a b c d e f g h 江藤淳『閉された言語空間-占領軍の検閲と戦後日本』文藝春秋、1989年

[27]GHQ/USAFPAC（米太平洋陸軍総司令部）一般命令第183号（1945年9月22日付）「民間情報教育局の設置」

[28]GHQ/SCAP 一般命令第4号（1945年10月2日付）「民間情報教育局の設置」

[29]児玉三夫訳『日本の教育-連合国軍占領政策資料』（明星大学出版部、1983年、ISBN 9784895490597）

[30]NHK放送文化調査研究所放送情報調査部編『GHQ文書による占領期放送史年表 昭和20年8月15日～12月31日』（1987年）

[31]有山輝雄『占領期メディア史研究』1996年、柏書房、ISBN 9784760113460

[32]江藤 1989、203-207 頁

海軍飛行機全滅す

横須賀海軍飛行機隊の機群は今日、雲霧による視界不良のため、浦和上空に迷い込み、浦和に墜落し、全機全滅した。機群は浦和上空に迷い込み、浦和に墜落し、全機全滅した。

鮮人浦和高崎に放火

高崎にて十餘名捕はる。浦和、高崎に於いて、鮮人十餘名が、七時十二分、松井田驛に於いて、列車を爆破し、浦和、高崎に放火した。鮮人十餘名が、七時十二分、松井田驛に於いて、列車を爆破し、浦和、高崎に放火した。

土關東

大正 12 年 9 月 4 日号外第二

商の抜けた山本内閣

平沼閣野氏の就任未し。大阪通信局へ來れる公報。山本内閣の閣員は、平沼閣野氏の就任未し。大阪通信局へ來れる公報。

新島出現す

大島で見えぬ。甲府市に。又も大地震。死傷見當付かず。房州半島の。尖端海水を噴く。油賀町全滅。船渠は倒壊火災。東京熱。既にも再録す。

横須賀戒嚴令

上陸禁止。米國船。救護隊。御無事か。工兵部隊。食糧品。四百の不逞團。月日同も全滅か。

■軍隊、自警団などがあらゆる暴虐をはたらく不逞朝鮮人を射殺・撲殺・検挙■

小樽新聞號外

第一

避難民の爲めに

畏くも宮城開放さる。目下既に收容中。政友會本部倒潰し。高橋總裁壓死。幹部廿名と協議中の災厄。松方公薨去。軍艦數隻。東京の大豪雨。避難民狼狽。中野電信隊と。石狩無電連絡。不逞鮮人銃殺。續々銃殺。燒失。

不逞鮮人銃殺

東京驛にて六名。不逞鮮人。續々銃殺。燒失。

九州日報號外

大正 12 年 9 月 4 日

鐵道沿線慘狀

國府津附近。此世ながらの地獄。確定關員顔振。重傷者の呻き聲。其後倒壊の大建物は。空中聯絡。燒失區域。

四百の不逞團

捕縛され、爆弾其他を押収した。月日同も全滅か。

■軍隊が治安維持に出動したため、不逞朝鮮人は爆弾を携帯しながら各地方へ退散、鎮圧鎮静化へ■



東京日日新聞 大正 12 年 9 月 8 日 第一版「流言飛語に対する通報に呆れる」



■朝鮮人の暴徒が各地で知れ渡る。沈静後も流言飛語が飛び交う■

■警視庁、不逞朝鮮人暴動パニック沈静化及び「不逞朝鮮人では無い朝鮮人」保護のため「取締りは完全に遂行した」と急告通達。しかし「不逞朝鮮人では無い朝鮮人」も爆弾、毒薬を疑われる。何回も通報があり、警察出動するも調査により誤通報多数■ (←コレに言い掛かり)

大阪毎日新聞 大正 12 年 9 月 4 日 号外第二「朝鮮人暴挙は完全取締を遂行」



■日本政府が「不逞朝鮮人では無い朝鮮人」の保護を閣議決定■

「不逞朝鮮人では無い朝鮮人」たちを習志野に収容。

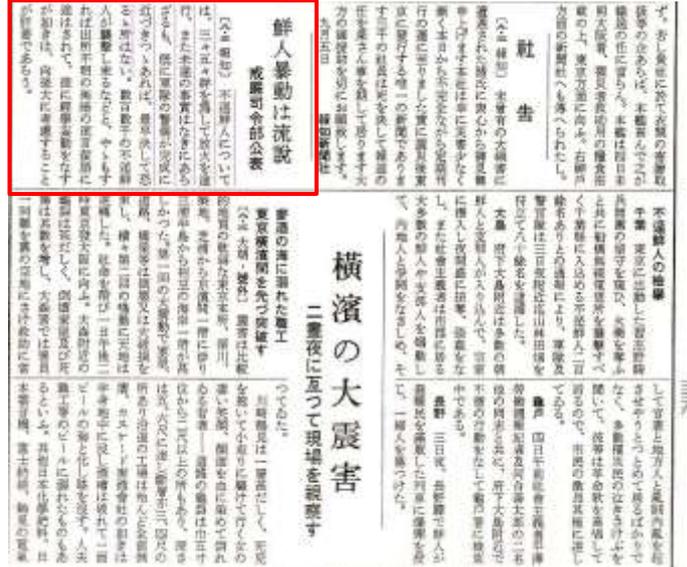
大阪毎日新聞 大正 12 年 9 月 5 日号外第二「政府の震災対策朝鮮人保護」



東京朝日新聞 大正 12 年 9 月 6 日特報第三
「朝鮮人習志野に収容 軍隊取締で人心安定に向かいつつあり」



大正 12 年 9 月 5 日報知新聞
「朝鮮人暴動は流説～戒厳司令部公表～」
(新聞収録大正史第十一巻
大正出版株式会社 昭和 53 年 6 月 20 日発行)



不逞朝鮮人については、三々五々群を為して放火を遂行、また未遂の 事実はないにあらざるも、既に軍隊の警備が完成に近づきつつあれば、 最早決して恐るる所はない。」

【まとめ】

1. 実際、一部の不逞朝鮮人たちが放火・掠奪・殺人・強姦・日本軍一個小隊を壊滅等、あらゆる破壊活動を行った。
- ↓
2. それら行為に対抗するため軍隊・自警団が検挙・射殺・撲殺をした。
- ↓
3. 不逞朝鮮人の暴徒を鎮圧したにもかかわらず、流言飛語が飛び交い、犯罪を犯そうとしない朝鮮人にも"疑いを"かけた。

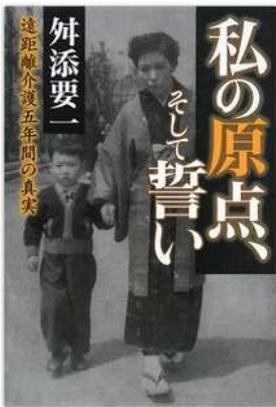
<http://koreanworld2.web.fc2.com/enjoylogs1/2006-09/20060909-050829.html>
より（鮮…人を朝鮮人に変更して）転載

◆都知事と韓国◆

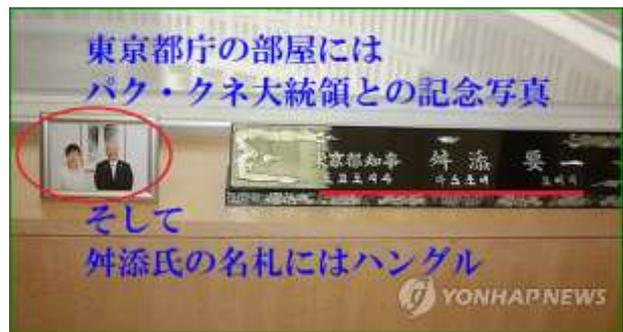
Business Journal http://biz-journal.jp/2014/08/post_5808.html より引用

舛添都知事、韓国優遇策の背景に私的な感情とルーツ？都内に韓国学校増設、在日韓国人融資
都知事に就任以前の10年には、在日韓国商工会議所で開催されたセミナーにおいて、「景気回復のためにも、金融機関は低金利で在日韓国人らにも融資すべき」と発言するなど、韓国優遇策を事あるごとに強調してきた。

舛添知事は、著書『私の原点、そして誓い』（佼成出版社）の中で、「舛添家発祥の地は福岡県ですが、**わが家は先祖代々朝鮮半島とはゆかりが深く**（略）私の父は自分の選挙ビラにハングル（朝鮮文字）でルビを振った最初の日本人だったようです。そんな縁で、私自身もハングルの勉強に励んでいますし、韓国への造詣を深めることに喜びを感じています。私は韓国には何度も何度も足を運んでいます」と述べており、韓国へは格別な思いがあるようだ。



私の原点、そして誓い—遠距離介護五年間の真実 単行本 - 2008/1
舛添 要一 (著)
★★★★☆ - 9件のカスタマーレビュー
すべてのフォーマットおよびエディションを表示する
単行本
¥1より
¥1より15中商品の出品



◆安倍総理と外交◆

分かりやすい70年談話

- ・そもそも西欧が侵略してアジアにまで植民地支配の手を伸ばしたんやで
- ・日本はそれに負けんと日露戦争とか勝ったんやで
- ・アジア、アフリカはそれで勇気付けられたんやで
- ・そやけど調子乗った日本は空気読めんと孤立したんやで
- ・そして日本は負けたんやで
- ・女性や色んな犠牲になった全ての人に哀しみの気持ちを捧げるで
- ・日本はもう力づくで物事を解決せえへんで、それは他の国もそうせなあかんのや
- ・そう誓って日本はお詫びを繰り返してきたんやで
- ・そうして アジアの国々に尽くしてきたんやで（台湾は国扱いな！）
- ・（謝罪を感謝に振り替えて、）世界の国々・皆さん 寛容な心で許してくれて感謝やで！
- ・日本はもう殆ど戦後生まれの世代やで、そやからあの戦争には関係ない
子孫たちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはならないんやで！
- ・日本はこれからも積極的に平和の為に貢献しますんでよろしう！ほな！

談話本文

終戦七十年を迎えるにあたり、先の大戦への道のり、戦後の歩み、二十世紀という時代を、私たちは、心静かに振り返り、その歴史の教訓の中から、未来への知恵を学ばなければならないと考えます。

百年以上前の世界には、西洋諸国を中心とした国々の広大な植民地が、広がっていました。圧倒的な技術優位を背景に、植民地支配の波は、十九世紀、アジアにも押し寄せました。その危機感が、日本にとって、近代化の原動力となったことは、間違いありません。アジアで最初に立憲政治を打ち立て、独立を守り抜きました。日露戦争は、植民地支配のもとにあった、多くのアジアやアフリカの人々を勇気づけました。

世界を巻き込んだ第一次世界大戦を経て、民族自決の動きが広がり、それまでの植民地化にブレーキがかかりました。この戦争は、一千万人も戦死者を出す、悲惨な戦争でありました。人々は「平和」を強く願い、国際連盟を創設し、不戦条約を生み出しました。戦争自体を違法化する、新たな国際社会の潮流が生まれました。

当初は、日本も足並みを揃えました。しかし、世界恐慌が発生し、欧米諸国が、植民地経済を巻き込んだ、経済のブロック化を進めると、日本経済は大きな打撃を受けました。その中で日本は、孤立感を深め、外交的、経済的な行き詰まりを、力の行使によって解決しようとしてきました。国内の政治システムは、その歯止めたりえなかった。こうして、日本は、世界の大勢を見失っていきました。

満州事変、そして国際連盟からの脱退。日本は、次第に、国際社会が壮絶な犠牲の上に築こうとした「新しい国際秩序」への「挑戦者」となっていった。進むべき針路を誤り、戦争への道を進んで行きました。そして七十年前、日本は、敗戦しました。

戦後七十年にあたり、国内外に斃れたすべての人々の命の前に、深く頭を垂れ、痛惜の念を表すとともに、永劫の、哀悼の誠を捧げます。

先の大戦では、三百万余の同胞の命が失われました。祖国の行く末を案じ、家族の幸せを願いながら、戦陣に散った方々。終戦後、酷寒の、あるいは灼熱の、遠い異郷の地にあつて、飢えや病に苦しみ、亡くなられた方々。広島や長崎での原爆投下、東京をはじめ各都市での爆撃、沖縄における地上戦などによって、たくさんの市井の人々が、無残にも犠牲となりました。

戦火を交えた国々でも、将来ある若者たちの命が、数知れず失われました。中国、東南アジア、太平洋の島々など、戦場となった地域では、戦闘のみならず、食糧難などにより、多くの無辜の民が苦しみ、犠牲となりました。戦場の陰には、深く名誉と尊厳を傷つけられた女性たちがいたことも、忘れてはなりません。

何の罪もない人々に、計り知れない損害と苦痛を、我が国が与えた事実。歴史とは実に取り返しのつかない、苛烈なものです。一人ひとりに、それぞれの人生があり、夢があり、愛する家族があった。この当然の事実をかみしめる時、今なお、言葉を失い、ただただ、断腸の念を禁じ得ません。

これほどまでの尊い犠牲の上に、現在の平和がある。これが、戦後日本の原点であります。

二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。

事変、侵略、戦争。いかなる武力の威嚇や行使も、国際紛争を解決する手段としては、もう二度と用いてはならない。植民地支配から永遠に訣別し、すべての民族の自決の権利が尊重される世界にしなければならない。

先の大戦への深い悔悟の念と共に、我が国は、そう誓いました。自由で民主的な国を創り上げ、法の支配を重んじ、ひたすら不戦の誓いを堅持してまいりました。七十年間に及ぶ平和国家としての歩みに、私たちは、静かな誇りを抱きながら、この不動の方針を、これからも貫いてまいります。

我が国は、先の大戦における行いについて、繰り返し、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明してきました。その思いを実際の行動で示すため、インドネシア、フィリピンはじめ東南アジアの国々、台湾、韓国、中国など、隣人であるアジアの人々が歩んできた苦難の歴史を胸に刻み、戦後一貫して、その平和と繁栄のために力を尽くしてきました。

こうした歴代内閣の立場は、今後も、揺るぎないものであります。

ただ、私たちがいかなる努力を尽くそうとも、家族を失った方々の悲しみ、戦禍によって塗炭の苦しみを味わった人々の辛い記憶は、これからも、決して癒えることはないでしょう。

ですから、私たちは、心に留めなければなりません。

戦後、六百万人を超える引揚者が、アジア太平洋の各地から無事帰還でき、日本再建の原動力となった事実を。中国に置き去りにされた三千人近い日本人の子どもたちが、無事成長し、再び祖国の土を踏むことができた事実を。米国や英国、オランダ、豪州などの元捕虜の皆さんが、長年にわたり、日本を訪れ、互いの戦死者のために慰霊を続けてくれている事実を。

戦争の苦痛を嘗め尽くした中国人の皆さんや、日本軍によって耐え難い苦痛を受けた元捕虜の皆さんが、それほど寛容であるためには、どれほどの心の葛藤があり、いかほどの努力が必要であったか。

そのことに、私たちは、思いを致さなければなりません。

寛容の心によって、日本は、戦後、国際社会に復帰することができました。戦後七十年のこの機にあたり、我が国は、和解のために力を尽くしてくださった、すべての国々、すべての方々に、心からの感謝の気持ちを表したいと思っております。

日本では、戦後生まれの世代が、今や、人口の八割を超えています。あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません。しかし、それでもなお、私たち日本人は、世代を超えて、過去の歴史に真正面から向き合わなければなりません。謙虚な気持ちで、過去を受け継ぎ、未来へと引き渡す責任があります。

私たちの親、そのまた親の世代が、戦後の焼け野原、貧しさのどん底の中で、命をつなぐことができました。そして、現在の私たちの世代、さらに次の世代へと、未来をつないでいくことができる。それは、先人たちのたゆまぬ努力と共に、敵として熾烈に戦った、米国、豪州、欧州諸国をはじめ、本当にたくさんの国々から、恩讐を越えて、善意と支援の手が差しのべられたおかげであります。

そのことを、私たちは、未来へと語り継いでいかなければならない。歴史の教訓を深く胸に刻み、より良い未来を切り拓いていく、アジア、そして世界の平和と繁栄に力を尽くす。その大きな責任があります。

私たちは、自らの行き詰まりを力によって打開しようとした過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、いかなる紛争も、法の支配を尊重し、力の行使ではなく、平和的・外交的に解決すべきである。この原則を、これからも堅く守り、世界の国々にも働きかけてまいります。唯一の戦争被爆国として、核兵器の不拡散と究極の廃絶を目指し、国際社会でその責任を果たしてまいります。

私たちは、二十世紀において、戦時下、多くの女性たちの尊厳や名誉が深く傷つけられた過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、そうした女性たちの心に、常に寄り添う国でありたい。二十一世紀こそ、女性の人権が傷つけられることのない世紀とするため、世界をリードしてまいります。

私たちは、経済のブロック化が紛争の芽を育てた過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、いかなる国の恣意にも左右されない、自由で、公正で、開かれた国際経済システムを発展させ、途上国支援を強化し、世界の更なる繁栄を牽引してまいります。繁栄こそ、平和の礎です。暴力の温床ともなる貧困に立ち向かい、世界のあらゆる人々に、医療と教育、自立の機会を提供するため、一層、力を尽くしてまいります。

私たちは、国際秩序への挑戦者となってしまった過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、自由、民主主義、人権といった基本的価値を揺るぎないものとして堅持し、その価値を共有する国々と手を携えて、「積極的平和主義」の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上に貢献してまいります。

終戦八十年、九十年、さらには百年に向けて、そのような日本を、国民の皆様と共に創り上げていく。その決意であります。

平成二十七年八月十四日
内閣総理大臣 安倍 晋三

外務省 安倍総理大臣演説 より各演説一部抜粋

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

インド国会における安倍総理大臣演説

「二つの海の交わり」 Confluence of the Two Seas 平成 19 年 8 月 22 日

私の祖父・岸信介は、いまからちょうど 50 年前、日本の総理大臣として初めて貴国を訪問しました。時のネルー首相は数万の民衆を集めた野外集会に岸 を連れ出し、「この人が自分の尊敬する国日本から来た首相である」と力強い紹介をしたのだと、私は祖父の膝下（しっか）、聞かされました。敗戦国の指導者 として、よほど嬉しかったに違いありません。

また岸は、日本政府として戦後最初の ODA を実施した首相です。まだ貧しかった日本は、名誉にかけても ODA を出したいと考えました。この時それを受けてくれた国が、貴国、インドでありました。このことも、祖父は忘れておりませんでした。

私は皆様が、日本に原爆が落とされた日、必ず決まって祈りを捧げてくれていることを知っています。それから皆様は、代を継いで、今まで四頭の象を日本の子供たちにお贈りくださっています。ネルー首相がくださったのは、お嬢さんの名前をつけた「インディラ」という名前の象でした。その後合計三頭の象を、インド政府は日本の動物園に寄付してくださるのですが、それぞれの名前はどれも忘れがたいものです。「アーシャ（希望）」、「ダヤー（慈愛）」、そして「スーリヤ（太陽）」というのです。最後のスーリヤがやって来たのは、2001 年の 5 月でした。日本が不況から脱しようともがき、苦しんでいるその最中、日本の「陽はまた上る」と言ってくれたのです。

これらすべてに対し、私は日本国民になり代わり、お礼を申し上げます

平成 25 (2013) 年 1 月 18 日、ジャカルタにて、安倍晋三総理大臣
開かれた、海の恵み——日本外交の新たな 5 原則——

III 日本を強くする

いま日本人に必要なものがひとつあるとしたら、それは「自信」です。夏に咲いて、太陽を追いかけるひまわりのような、「向日性」です。かつて日本に、あふれるほどあったものが、いま、欠乏しています。だからといって、わたくしはなにひとつ悲観しようと思いません。わたくしたち日本人が「自信欠乏症」にかかっているとすれば、それをなおしてくれる人があり、歌があるからです。ここからわたくしの話は、みなさんへの感謝に焦点を移します。

IV インドネシアに Terima kasih

すでにみなさん、インドネシアの人々は、日本人にたくさんの自信と、勇気を与えてくれました。そのおひとりが、この場にいないのはとても残念に思えます。インドネシアと日本が結んだEPAは、多くの看護師を日本へ送りました。日本の資格を取ろうとする人も少なくありません。それには、難しい試験を突破する必要があります。

2011年の資格試験は、地震が起きた直後に、結果発表の日を迎えました。難関を突破したおひとりが、兵庫県の病院で働くインドネシア人の女性、スワルティさんでした。合格発表を受け、病院でスワルティさんが記者会見をしていたときです。喜びの顔が突然くもり、彼女はこう言い始めました。「福島県で、宮城県でも、津波がきました」声を詰まらせたスワルティさんは、病院の医師に向き直り、涙で声を震わせながら言ったのです。「私もできれば行かせてください、先生。みなを手伝いたい。お願いします」。スワルティさんは、被災地の、避難所へ入りました。家屋の半分が流され、500人以上の人が命を落とした町の避難所です。そこで、彼女は不思議な能力を発揮します。

ショックのせいで泣いてばかりの少女が、スワルティさんと話し始めると笑顔になりました。年老いた女性が、まるで孫に接するように、彼女にほほえみをみせました。不自由な避難所で、そんな光景が生まれました。

「大丈夫です。これからみなさん、ピカピカの未来がくるので、一緒にがんばりましょう」避難所を去るときの、それが、スワルティさんのあいさつでした。

Wahai sakura, (ワハイ, サクラ) mekarlah. (メカルラー) mekarlah dengan penuh bangga, (メカルラー, ドウンガン, プヌー, バンガ) di seluruh pelosok Jepang. (ディ, スルルー, プロソック, ジパン) Mari Jepang, (マリ, ジパン) bangkitlah. (バンキットラー) bangkitlah, dengan percaya diri, (バンキットラー, ドウンガン, ペルチャヤ, ディリ) di dunia ini. (ディ, ドウニア, イニ)

わたしの下手なインドネシア語は、大目に見てください。この歌は、歌詞がもともと日本語なのです。「桜よ」という、歌の一節です。「桜よ、咲き誇れ、日本の真ん中で咲き誇れ」「日本よ、咲き誇れ、世界の真ん中で咲き誇れ」と、歌ってくれています。ジャカルタに、大学生たちによる、日本語でミュージカルを見せる「エン塾」という劇団があります。2011年3月11日の悲劇を知り、心をいためたエン塾の学生たちは、日本よがんばれ、桜のように、世界で咲き誇れという歌を、美しい曲に乗せてくれました。そして5月1日、30を超す大学から500人の学生がつどい、すばらしい合唱をしてくれたのです。わたくしは彼らの合唱を見、声を聞きました。そして、深く、感動しました。いまから1分20秒だけお見せします。どうかご一緒にご覧ください。ご列席のみなさま、この歌を作曲した青年がいます。JCC, ジャカルタ・コミュニケーション・クラブで、広報を担当している、ファドリ君です。そして、JCCを創立し、エン塾の指導に努めてこられた先生、かいきり・すがこ(甲斐切清子)さんです。ファドリ君、ありがとう。やさしいインドネシアのみなさん。みなさんと日本人は、みなさんが好きだという日本の歌、五輪真弓の歌がいう、「心の友」です。そのことをスワルティさんや、ファドリ君たちが改めて教えてくれました。Terima kasih (テリマ・カシ)。

米国連邦議会上下両院合同会議における安倍総理大臣演説

「希望の同盟へ」（2015年4月29日（米国東部時間））

アメリカと私

私個人とアメリカとの出会いは、カリフォルニアで過ごした学生時代にさかのぼります。家に住まわせてくれたのは、キャサリン・デルーフランシア夫人。寡婦でした。亡くした夫のことを、いつもこう言いました、「ゲイリー・クーパーより男前だったのよ」と。心から信じていたようです。ギャラリーに、私の妻、昭恵がいます。彼女が日頃、私のことをどう言っているのかはあえて聞かないことにします。デルーフランシア夫人のイタリア料理は、世界一。彼女の明るさと親切は、たくさんの人をひきつけました。その人たちがなんと多様なこと。「アメリカは、すごい国だ」。驚いたものです。

のち、鉄鋼メーカーに就職した私は、ニューヨーク勤務の機会を与えられました。

上下関係にとらわれない実力主義。地位や長幼の差に関わりなく意見を戦わせ、正しい見方なら躊躇なく採用する。

——この文化に毒されたのか、やがて政治家になったら、先輩大物議員たちに、アベは生意気だと随分言われました。

かつての敵、今日の友

みなさま、いまギャラリーに、ローレンス・スノーデン海兵隊中將がお座りです。70年前の2月、23歳の海兵隊大尉として中隊を率い、硫黄島に上陸した方です。

近年、中將は、硫黄島で開く日米合同の慰霊祭にしばしば参加してこられました。こう、仰っています。

「硫黄島には、勝利を祝うため行ったのではない、行っているのでもない。その厳かなる目的は、双方の戦死者を追悼し、榮譽を称えることだ」。

もうおひとかた、中將の隣にいるのは、新藤義孝国会議員。かつて私の内閣で閣僚を務めた方ですが、この方のお祖父さんこそ、勇猛がいまに伝わる栗林忠道大將・硫黄島守備隊司令官でした。これを歴史の奇跡と呼ばずして、何をそう呼ぶべきでしょう。

熾烈に戦い合った敵は、心の紐帯が結ぶ友になりました。スノーデン中將、和解の努力を尊く思います。ほんとうに、ありがとうございます。

第70回国連総会における安倍総理大臣一般討論演説 平成27年9月29日

2.

嬰兒（みどりご）をもつ母ならば、その健やかな成長を、それのみを願うことができる環境を、日本は作りたいと念じます。そう考えていたとき、一枚の写真に出会いました。ある難民女性の、カバンの中身を写した写真です。手荷物をたった一つだけ持って難を逃れるとき、人はカバンに、何を詰め込むのか。ダマスカス南方にあるパレスチナ難民キャンプを逃れ、ゴムボートで地中海を渡った二十歳（はたち）の女性、アベッサ（Aboessa）は、多くを持ち出せませんでした。写真に写っているのは、生後10ヵ月の、娘のものばかりです。靴下の替えが一足。一つの帽子と一ビンのベビーフード。眺めるうち、私の目は、ノートのような何かに釘付けになりました。ビニールで大切に包み、水がかかっても大丈夫なようにしてあるノートをよく見ると、それは、私たちがシリアの難民キャンプで配った「母子健康手帳」だったのです。日本では、懐妊を知った女性は手帳を貰います。母子の健康を長く記録するノートで「母子健康手帳」といい、この制度は70年以上続いています。手帳が書き留めた身長や体重を見て、わが子の成長に目を細める母のうち一体誰が、その同じ子が、成長したのち、恐怖の使徒となるのを望むでしょう。

手帳は母の、「わが子よ、健やかなれ」と願う、祈りの記録です。それは力を帯びる。この子に、命を粗末にはさせじと、母親に念じさせる力です。絶望や恐怖を生む土壌を、母の愛で変えたいと願えばこそ、私たちは、パレスチナや、シリア、ヨルダンの難民キャンプで、母子健康手帳を配ってきました。そんな願いのこもった手帳を、脱出行（こう）のさなか、大切に持ち続けた女性が確かにいた。

第二次安倍内閣が発足して二ヶ月がたった。衆院選挙自民党圧勝直後から、他の政治家にはあり得ないようなすさまじいメディア総出の安倍パッシングも息切れしてきたようだ。中国、韓国、北朝鮮をはじめ、朝日、読売、毎日等の新聞メディア、テレビ各局、ネットのありとあらゆる場で気が狂ったような安倍叩きラッシュの理由解析を含め考察してみたい。

中韓朝三国になぜこれほどまでに嫌われ警戒されるのか、まさにこの本質が安倍イズムである。安倍イズムとは何か。一言で言えば日本本意主義である。不思議なことに日本の政治家であれば当たり前のことが彼らにとっては脅威なのだ。

今の日本の政党を考えてみるといい。民主党（朝鮮傀儡政党）社民党（売国政党）共産党（どこの国の政党か）公明党（宗教政党）.. 自民党にしても利権まみれの政党であって、日本という国がどこにも見えてこない。

これは政治家個人にもそっくり当てはまる。衆院選挙前に小生が試みた国会議員の清廉潔白度の点数をみてみればそれは明白だ。どの政治家も私利私欲がぎらぎらしている。

ところが安倍にはそれがない。政治家の家系に生まれ育ちある意味苦勞なき保守本流の政治家で目の前にあるのは日本という国だけということだ。世襲の中では唯一無二といってもよかろう。こういう欲のない政治家は敵にとっては実にやっかいだ。しかし第一次内閣では、安倍の唯一の弱点である育ちの良さが政権放り投げの一因となってしまった。では、ここで第一次内閣で安倍が取り組んだことを振り返ってみよう。安倍が嫌われるヒントがここにある。

北朝鮮制裁を強化。防衛省昇格を成し遂げ教育改革を断行。非正社員の社会保険と厚生年金の適用。人権擁護法案凍結。パチンコ屋を税務調査。貸金規正法を改正、グレーゾーン完全廃止で悪徳サラ金業者を締めだし。在日や凶悪犯罪を取り締まる共謀罪成立に全力で取り組む等々。中韓朝三国にとって防衛省への格上げは最悪。民主党支持母体朝鮮まみれの日教組にとって教育改革は不愉快。在日朝鮮人権利拡大を目論んだ人権擁護法案は凍結。韓国、北朝鮮人経営が9割をしめるといわれるパチンコ屋を税務調査。ほとんどが朝鮮人経営のサラ金業者を規制取り締まり。8万人のうち半分は在日といわれる暴力団や凶悪犯罪を取り締まる共謀罪への取り組み。全く中韓朝三国にとっては天敵と言っていだろう。安倍が退陣したときの彼らの喜びようは半端でなかったというのもうなずける。

だがこの5年で安倍はしたたかに、たくましくなって帰ってきた。それも両手に希有な強運と国民の理解と支持を抱えて復活した。彼らにとってはまさに悪夢の再来である。

日本は歴史上、国家存亡の危機と奇跡を二回経験している。元寇であり日露戦争である。そして当時世界最強の元帝国とは二回の台風による敵艦隊自滅。ロシア帝国を相手にしては日本海海戦における殲滅と人知でははかりきれない強運を経験している。日露戦争などは幸運の連続であったことは戦史をたぐれば一目瞭然である。あろうことか二回の国難とも敵がかってに消滅してしまったのだ。そこに異様な得体の知れない何かを感じるのは小生だけか。

そして三回目の国家存亡の危機が2012年であった。朝鮮傀儡民主党の政権獲得によって韓国大統領の日本乗っ取り完了宣言まで出される始末で、マスメディアもそっくりキムチ漬、日本消滅確実の状況であった。ところがここで三度目の奇跡が起こる。元寇、日露戦争と同様に敵が自滅してしまったのだ。

経緯をわかりやすくある賢者のシナリオとして記述しておこう。

2008年賢者のシナリオ。

利権にまみれた自民党は一度壊滅させ朝鮮民主党に政権をとらせる。政権運営の経験のない素人集団民主党的自滅を画策する。すぐに利権と権力の争奪戦が起きるが、その中で民主党的正体を暴露していく。

日本の政治において一番の問題は隠れ朝鮮であった。

よってマスメディアが朝鮮になぐられている状況をネットを使って打破し、真の日本国民の敵は誰かを明らかにしていく。ネットに国民の興味ある情報を流し普及させる。これにより真実を国民に知らしめる環境をつくる。

戦後、隠蔽され続けてきた正しい情報を得ることで国民が目覚めれば、それは即、日本再生に直結する。気をつける政治家は小沢一人。彼は経験的に金についてもガードが堅く攻めにくい内部に敵も多く、裁判で身動きできないようにして、次期衆院選挙まで時間を稼ぐ。

衆院選挙のテーマはマスメディアの報道は関係なく、日本自民党か朝鮮民主党かという構図に持ち込む。

概略こんなところだが、みごと完璧にはまった。朝鮮民主が消滅してしまったのである。実際にこのようなシナリオを描き、実行する、あるいは実行させた人物がいたのかどうか。シナリオ自体がリアリティに欠けていて、小生思うにこのシナリオの実現性はまず不可能と思われるので、そこには何かしらの力が働いていたと思わざるを得ないのである。

2012年の民主党的分裂、崩壊は自滅であって安倍はもちろん自民の誰も関与していない。また竹島問題、天皇陛下侮辱問題、日本乗っ取り宣言などは韓国自作自演の自滅である。

民主党的内の利権争いと主導権争いから、小沢が離党し分裂したのも自滅である。そして離合集散していくなかで民主党的が朝鮮民主党的であることが明らかになっていったのである。

一方で安倍は何もしていないにもかかわらず次々に信号が連動で青になる。総裁選では谷垣がはずされ、本命の石原が舌禍もあって石破に破れ安別に椅子が転がり込んできた。衆院選挙では民主党的が勝手にこけて圧勝。議員の数ももちろんであるが、それ以上に民主党的が朝鮮傀儡政党的であることを国民が知ったことが何よりも大きい。民主党的の復権は不可能となった。また衆院選挙前後において安倍の抵抗勢力があぶり出されたのも大きい。今やマスメディアの報道を100%信ずる者など皆無である。

そして国民は平和憲法擁護をかざしてきた良識の人々が右も左も反日勢力であったことに気づいてしまった。国民の約7割が安倍を支持している。日本再生、憲法改正等に立ち上がる似非平和主義者と反日勢力があぶり出されてきた。敵が見えれば怖いものはない。

政党的に目を転ずれば、民主党的は壊滅、参院選で消滅の可能性までである。維新は安倍の流れに乗ろうとしている。勢力を伸ばすだろう。みんなの党も同様。ただし公明党はあぶない。

尖閣問題で中国までしゃしゃり出て行って親韓だけでなく親中国であることまでさらけだしてしまった。たださえ同和だ、在日だといわれている宗教政党的、自民党的にとって代替政党的があれば用はない。即刻連立解消切り捨て、かつ課税対象と壊滅的打撃を受ける可能性が高い。

中韓朝三国との紛争、戦争突入時、暴力団共々どう対処するか検討対象であることをご存じかな。共産党的は二月の志位委員長慰安婦発言によって国民をしらけさせました。対立国が正しい、日本は補償すべきだという発言は勇気があるとは思いますが、小生に言わせれば、現状ではただの馬鹿としかいいようがない。日本の国益あつての共産党的。周囲の支持者皆同意見ですよ。社民党的は役割を終えました。

また一方で隠れ反日が問題となってきた。鳩山、河野、村山、加藤等である。

危機的状況のなかでは、多少なりとも影響のある政治家の行動は慎重であるべきで、ここでは詳細には取り上げないが、彼らの行動が憲法第81条外患誘致罪あるいは憲法第82条外患援助罪に当たる可能性の有無がネットで話題となりつつある。また外国人献金問題では、菅、前原、野田をはじめ以前とは大きく雰囲気が変わって売国奴的きびしい見方をする国民が増えていることから、この件、再度追求される可能性が高いと思われる。

このような流れの中では、反安倍勢力の力は落ち込むばかりだ。ネットでは当初狂ったように安倍パッシングしていた民主党と在日の連中の動きがこのところ衰弱し、民主党などは関係するスレッドをほとんど自ら遮断している。もう戦意喪失かな。マスメディアの報道も論調が大きく変わってきた。観念したのか、降参したのか論調が右左。毎日新聞、神奈川新聞、北海道新聞等が安倍へのかみつき記事を掲載すると、なんだ朝鮮系かと侮蔑される有様で哀れみを感じてしまう。日弁連の人権擁護発言には、こいつらも朝鮮かで終わり。半年前とは様変わりだ。

さて発足後これまでの安倍の対応をみてみよう。対中国については尖閣問題あたらずさわらずでの流し。これで正解だろう。このテーマは別に取り上げる。

尖閣で万一中国が先制攻撃をしかけて当初被害を受けても全面戦争にはならない。逆に日本の国防力アップに拍車がかかるだけだ。急激に経済的にこじれるようであれば撤退すればいいだけの話だ。日中対立のマイナスは中国の方が桁違いに大きい。日本の影響は純粋に金銭だけの問題すぎないが、中国は国の崩壊まであり得る。中国にとって開戦はリスクが大きすぎる。

対北朝鮮はミサイル発射、核実験強行で経済制裁強化を打ち出し訪米ではテロ国家指定問題を含め突っ込んだ具体的な議論と決定がなされるだろう。管内閣の時にやくざ暴力団テロ指定のアメリカ提案内容を菅が筒抜けにしたために、アメリカは激怒して、この関係の提案をしていないが、おそらく話し合われるだろう。覚醒剤、パチンコ、暴力団は北朝鮮対策三点セットだ。今回はアメリカも強硬で暴力団テロ指定、関係口座凍結、パチンコ換金禁止等を具体的に要求してくる可能性が大きい。もし実施となれば韓国にも北朝鮮にも致命的な影響が出ることは避けられないだろう。

対韓国については別に詳述するが、遅くとも2015年の在韓米軍の指揮権委譲により米軍は韓国前線から撤退する。米軍が他国軍の指揮下に入ることなどありえない。北朝鮮の侵攻があっても海軍が遠巻きにみて、空軍のお茶にごしだけで陸軍部隊は参戦しないだろう。韓国は所詮中国に飲み込まれるものとみているのは日本と同じだ。朝鮮民主党の時代とは全く状況は変わっている。日本国民で韓国窮地の際助けようと思う者はいない。

以前は国民に隠れてこそそとスワップ増額などの援助をしてきた売国奴がいたが、すべてオープンのは今はそれもできない。日韓友好議員連盟の額賀や麻生を動員しての工作も国民監視の下では不可能だ。二期目の安倍は実に慎重でしたたかだ。参院選まではまあこんなもんだらう。

転載ここまで

信じるか信じないかは 貴方次第です。